

【議事概要】第 32 回浜田市行財政改革推進委員会

日 時:平成 27 年 7 月 24 日(金) 10:00~12:00

場 所:浜田市役所 本庁 4 階講堂

出席者

【委員】大橋敏博委員、~~岩谷百合雄委員、光延忠彦委員、槇岡正明委員~~、宮内浩二委員、神田純弘委員、大谷克雄委員、花田香委員、賀戸ひとみ委員、細川良一委員、玉置龍一委員、芳川榮佑委員、熊谷富雄委員、加藤喜六委員、市山多津子委員、下谷巧委員、佐古肇徳委員

【市】市長、副市長、~~教育長~~、総務部長、地域政策部長、財務部長、健康福祉部長、市民生活部長、産業経済部長、都市建設部長、議会事務局長、教育部長、消防長、上下水道部長、広域行政組合事務局長、金城支所長、旭支所長、弥栄支所長、三隅支所長、市長公室長、総務課長、財政課長、人事課長、行財政改革推進課長

1 市長あいさつ

2 行財政改革の諮問

3 協議事項

①浜田市行財政改革実施計画 平成 26 年度報告・平成 27 年度計画について

- ・ 標題議事について、資料を用いて事務局より概要を説明の上、委員からの意見、質疑を受けた。
- ・ 委員意見、質疑の詳細については、別紙 1 のとおり。

②浜田市行財政改革大綱の策定について

- ・ 行財政改革大綱（素案）について事務局より説明。質疑応答については次回の行財政改革推進委員会で行う。
- ・ 委員意見、質疑の詳細については、別紙 2 のとおり。

2. その他

別紙1 浜田市行財政改革実施計画平成 26 年度報告・平成 27 年度計画について

委員意見等(要点筆記)

委員意見及び浜田市回答

「111 自治基本条例の制定」

☆ 「協働のまちづくり」に向けた機運の醸成に努めるとあるが、具体的には何を進めているのか。

⇒ 昨年度はまちづくりフォーラムを実施。また、先進地域また他地域の事例を紹介するなど実施している。

「112 市民、地域との連携強化」

☆ 団体活動の支援と機運の醸成に努めるとあるが、具体的には何を進めているのか。

⇒ まちづくり総合交付金の来年度の見直しの際は、より地域活動に踏み込んだ仕掛けにしていきたいと考えている。

「113 島根県立大学との連携」

☆ 行政体験実習生の受け入れが、計画を大幅に下回っている要因は。

⇒ 当初は浜田市が実施し、浜田市だけが受け入れを行っていたものが、平成 25 年度からふるさと島根定住財団で取りまとめを実施することになり、浜田市だけでなく、県内の他の自治体への受け入れも行うようになったことが大きな要因。
今後は地元自治体として、浜田市単独で受け入れを実施することも検討したい。

「114 リハビリテーションカレッジ島根との連携」

☆ 中学校や高校時代から体験入学を実施してはどうか。

⇒ 高校についてはオープンキャンパスを中心に実施しており、先日は益田高校の生徒を、高校の授業の一環として受け入れた。
三隅中学校については昨年度実施したが、生徒が将来の道を描くには少し早いと感じている。

「126 公募委員の推進・審議会等委員体制の見直し」

☆ 浜田市が所管している委員会の数は。

⇒ 現在 26 委員会ある。その中で女性参画率は平成 26 年度で 25.2%となっている。

「127 議会の情報公開の促進」

☆ 会議の動画ライブ配信や録画配信について、議会への住民参加及び緊張感のある議会答弁に期待できると考え、早期実現を望んでいるが、現在の検討状況について教えてほしい。

⇒ 本日の意見は議会へ報告させてもらう。
ライブ配信については、平成 27 年度を目途に実現に向けて進めることで意思確認はしており、なるべく早い段階で実現したいと考えている。

「131 学校給食施設の統合」

☆ 給食センターの問題について、「公共施設再配置計画を踏まえ」とあるがこの計画の内容が解らない。

⇒ 市全体の公共施設の今後のあり方、方針について今年度中に策定を予定している。その中に給食センターの位置づけがあり、本年度中に給食センターをどうしていくか結論付けていこうと考えている。

☆ 総合的に判断するとあるが、どのように判断し実行に移そうと考えているのか具体的に教えてほしい。

⇒ どの様に判断するかがポイントになるが、センター数によってメリット、デメリットがあるため、その点を総合的に判断していくことになる。

☆ これまでも地域住民との話し合いはあったが、結論を出す際はこれまでと同様の手順を踏んでもらわないとこれまでと同じことになる。

それを踏まえ、地域住民に対しどのように理解を求めようとしているのか。

⇒ これまでも地域住民にも説明しており、大方の意見は集約できていると考えている。これからは今後の方向性を決定した上で、再度地域住民へ説明をしていこうと考えている。

「132 幼保一体化の検討」

☆ 幼稚園の受け入れ時間について午後 2 時までとなっているが、働く母親に合わせた体制とすることはできないのか。

⇒ 幼稚園は学校教育の一環として位置付けられており、家庭に観る者がいるということが前提で、標準が 4 時間となっている。

母親が働くということになると保育所での受け入れとなる。

☆ どの幼稚園も定員を割っている。逆に保育園は入りたくても入れない人がいるという声を聞く。4 つの幼稚園は統合し、代わりに保育園を設置し待機児童をなくすということできないか。

⇒ 最近、保育園への入所を希望する人が増えており、年度途中では入所できないという声を聞いている。

保育所拡充（定員増）や一時保育に力を入れていきたいと考えている。

幼稚園の統合については、教育委員会と十分協議していきたい。

「134 公募による指定管理者制度の推進」

☆ モニタリングのスケジュールについてはどうなっているのか。

⇒ 現在、平成 26 年度のモニタリングを実施している。結果についてはもう少しお待ちいただきたい。

☆ ウェスタンライディングパークの指定管理料は今後どのように推移していくのか。

指定管理料を減らしていく努力が必要。しっかりと指導してもらいたい。

⇒ 現在 2,000 万円で委託しているが、この額については今後精査していかなくてはならないと考えている。

☆ ウェスタンライディングパークの指定管理者は社会福祉法人だが、社会福祉法人の場合、赤字経営でも問題ないとの声がある。市としてどう考えているのか。

⇒ 社会福祉法人だから赤字でいいということではなく、指定管理料も公金なのでチェックしてなくてはならないと考えている。

☆ ウェスタンライディングパークの運営体制についてはどうなっているのか。

⇒ 指定管理者、行政、地域の連携が重要と考え、イベントへの企画や経営に対する指摘を 3 者で議論する場を設けている。

☆ 市が支出している金額の増減や収入の増減をわかりやすくするための一覧表を作成し、全体的なマネジメントをした上で推進してもらいたい。

⇒ まとめることが可能な施設については、まとめて指定管理している施設もあるが、現段階では今の状況で推進していきたい。

市営駐車場については平成 28 年度 4 月から 3 施設をまとめて指定管理する方向で進めている。

「311 定員適正化計画の管理・推進」

☆ 正規職員数と臨時・嘱託職員数の合計が平成 22 年度と平成 26 年度で変化が無いのは、正規職員を減らし臨時・嘱託職員で賄う形になっており、合併効果による職員削減には繋がっていないのではないのか。

⇒ 計画では業務の外部化や効率化による職員削減を目指しているが、実際には臨時・嘱託職員で賄っている部分はある。ただし業務内容は精査した上で担ってもらっている。

なお、嘱託職員数には公民館主事等も含まれており、一般の行政業務だけの数ではないこと、また、学校用務員については計画段階から正規職員を止め嘱託職員で賄っていく計画としていたことをご理解いただきたい。

「322 時間外勤務の抑制」

☆ 時間外勤務に関する許可の流れはどうなっているのか。

⇒ 業務週報をもって管理職は業務を把握し、その日の退勤時間までに、当日終わらせるべき業務かどうかを確認した上で、時間外勤務が必要と判断した場合に命令を行うこととしている。

また、翌日には、業務内容や退勤時間を確認し最終的に承認する。

「722 財産活用」

☆ 遊休財産の売却は進んでいるとのことだが、一方でJT跡地の購入の話も聞いている。この財産の用途は決まっているのか。

⇒ JT跡地は学校や医療センターに近いこともあり、使用用途を浜田市のコントロール下に置きたいことから取得するもの。

将来的な活用は、一部は公共事業の代替地、残りについては賑わいに資する利用となるよう検討していくこととしている。

☆ 弥栄には笠松市民の森があり、そこで伐採された木がそのまま放置されている。これをバイオマス工場等へ売却する計画はないか。

⇒ 伐採のための重機を入れる道が無いので、切れば切るだけ赤字が増える状態の中、島根県と協働し、三隅火電や江津のバイオマスに供給を行っている。

今後も木材の有効活用を図りたい。

☆ 重機の問題もあるが、木を切ることができる人夫が不足しているという話を聞く。人夫の養成をすることも必要ではないか。

⇒ 林業や伐採に関わっている業者に対し、本日の意見を十分伝えながら善処していきたい。

「732 滞納繰越額の縮減」

☆ 滞納の内容、主な中身及び早急に対応しなければならないものは何か。

⇒ 最も早急に取り組むべきものは、市税の中でも固定資産税と前年所得によって課税される国民健康保険料の2つであると考えている。その中で、収納対策本部で対応を協議しながら、長期的な滞納で回収が困難なものについては不能欠損等の適切な処理を行っている。

「その他」

☆ 中山間地整備事業の県予算214百万円のうち浜田市への配分額は。

⇒ (回答なし)

☆ 県民一人あたりの投資額は約37万円だが、浜田市民一人あたりの投資額はいくらか。

⇒ 県の数字の基準が不明なため正確ではないが、仮に今年度の普通建設事業費で計算すると132,000円になる。

☆ 広島市場開拓室の活動状況について、平成26年度末以降8カ月間のアプローチ数及び実績は。

⇒ 今現在の詳細なアプローチ数等は把握していないが、「販路開拓」「浜田港の利活用」「企業誘致」の3つミッションをもって日々活動している。

別紙2 浜田市行財政改革大綱の策定について

委員意見等(要点筆記)

委員意見及び浜田市回答

☆ 総合振興計画と併せて考えないといけないと思うが、総合振興計画の状況がどうなっているのか、進行状況でもいいので私達にも示してもらいたい。

⇒ 総合振興計画については、行革と同様の審議会を設置し同時進行で進めている。

現在、基本構想の骨子の部分を審議することになっており、ここで諮った後に示すことができる部分については示していきたい。